

## 子ども用交流ホームページ「子どもの広場」での実践 - 教室から全国へ！ 御陵の玉ねぎをPRしよう -

神奈川県横浜市立飯田北小学校 5年担任 横山 美明  
yoshiaki@ab.wakwak.com

福井県吉田郡松岡町御陵小学校 6年担任 竹林 保博  
yasu-t@mitene.or.jp

キーワード 子ども広場、学校間交流、総合学習、小学校、電子掲示板、インターネット、玉ねぎ

### 1. はじめに ～「子どもの広場」概要～

昨年度、このEスクエア・プロジェクトにおいて、4校の実験参加校間で子どもたちの交流に主眼を置いたウェブ「子どもの広場」のシステムのあり方、インターネットの学習活動への活用の模索を行い、ウェブ上の電子会議室のデザインや数、活動テーマ、子どもたちのメールのやり取りに関する教師の援助の仕方、スタッフのモデレーターの仕方などにたくさんの示唆を得ることができた。この昨年度の活動を背景に、今年度は参加交流校を昨年度の4校から10数校に増やし、さらなるインターフェースの改良・変更、より多くの学校が参加した場合のシステムの負荷、会議室運営にかかわるノウハウの蓄積・改善を行い、子どもたちが情報収集のみにおわらない双方向性のある「子どもの広場」をウェブ上に展開することにより、総合的な学習に代表される学習場面への場を提供するための仕組み作りを行った。参加校間のネットワーク上の交流を通し、子どもたちや教師から自主的に具体的な活動案や実践テーマが上がってくることを目標としたこの「子どもの広場」を活用した実践例を次に紹介する。

### 2. 御陵小学校実践レポート ～「子どもの広場」での取り組み～

#### (1) はじめの段階

本校は、全校児童140名、各学年1クラスの小さな学校である。転出入も少なく、子どもたちが他の学校と交流する機会は、連合体育大会や音楽会、修学旅行と限られていた。当初この「子どもの広場」には、6年生全員(26名)でも考えたが、現在のネットワーク環境を考え、とりあえず4人の子どもたちで始めることにした。4人には、グランドオープン前からIDを発行し、私と5人で書き込みや返事のやりとりを練習したり、返事がもらえるような書き方や、書き込む際のモラルについて話し合った。

#### (2) いよいよ「子どもの広場」グランドオープン ～4人の子どもたちは～

待ちに待ったグランドオープンの日、4人はさっそく書き込みをはじめた。「であいゾーン」のコーナーへの書き込みが多く、私としてはなるべく早く「まなびゾーン」へ関心を向けたかったのだが、まずは一人ひとりの様子を見ることにした。行動力のあるY君は、私の「最後に返事がもらえるようなコメントをつけるといいよ。」というアドバイスに「君はどうなの?」「もし教えてほしかったらまた返事をしてね。」と締めくくるなど、初めて電子掲示板に参加したとは思えないような書き込みぶりをみせた。家でもよくPCに触れているS君は、毎朝教室のPCを起動し4人全員への書き込みをチェックした。人とのコミュニケーションがちょっと苦手なT君、K君も予想以上に興味をもって参加し始めた。期待していた「まなびゾーン」への書き込みを最初にしたのもT君だった。教室のPCが全国の友達との交流窓口に変身しつつあった。

#### (3) ふるさと御陵の自慢の一品 ～ふるさと自慢への書き込み開始!～

御陵の玉ねぎといっても地元の人しか知らないだろう。しかしこの玉ねぎが他の産地と比べてとても大きくて甘く、加工工場へ出荷され給食でよく使われる、ということ調べて学んできた子どもたちの心の中に、御陵の玉ねぎが自分たちの自慢の一品という思いが膨らんできていた。この思いを4人のメンバーが「ふるさと自慢」への書き込みで表現し始めた。大学の生物資源学科の教授から玉ねぎの成分や栄養について教えてもらったT君は、「報告」というタイトルで真っ先に書き込んだ。続けてK君が近くのレストランで教えてもらったことを「玉ねぎの料理」というタイトルで書き込んだ。すぐに神奈川県の元街小、千葉県の芝浦柏中から反応があり、徐々に交流が始まろうとしていた。玉ねぎの歴史や生産の様子を地元のJAに行き調べたY君は、「御陵の玉ねぎ」というタイトルで書き込みをはじめた。質問や感想を募集したり、「これからどんどん紹介するね。」という締めくくりは、これからの書き込みを期待してのものだった。しかし、その後1週間、返事もなくなり、それぞれのやりとりは終わりがけるかに見えた。それに変化をつけたのがT君だった。彼は自分たちも書き込みに注目してもらおうと、玉ねぎのことをクイズにして書き込みをはじめた。私も、子ども同士の交流がここで切れてしまわないように「みなさん、特産物を教えてね。」と書き込みをした。これにはいろんな学校からたくさんの返事があった。これまで自分たちのPRばかりに目がいってしまっていたが、どこの学校、地域にも自慢できるものがあることがわかった4人は、中華街の近くにあるという神奈川県の元街小学校、チューリップが有名という富山県

## E スクエア・プロジェクト成果発表会

の出町小学校に、それぞれどんな地域にある学校なのかとアプローチをかけた。同じ時期開催された先生方のオフライン作戦会議で御陵の玉ねぎをプレゼントした翌日、「御陵の玉ねぎはすごく大きい！（図1）」と画像も添えてある返事もらった4人は、他の学校の子が自分たちの自慢の品を宣伝してくれたことに、驚きとうれしさを隠しきれない様子であった。

### （4）スタッフのみなさんの心温まる励まし

子どもたちが自信を持ってPR活動ができるようになったのは、スタッフのみなさんからの励ましも大きかった。北陸会議の時にプレゼントした御陵の玉ねぎと淡路島のおみやげ（オニオンスープ）を並べたといった画像を添付して、御陵の玉ねぎと淡路島とのつながりを紹介して下さったり、玉ねぎ染めを紹介して下さったスタッフもいた。ちょうど児童会主催の「御陵っ子祭り」でどうやって玉ねぎをPRしようかと考えていた子どもたちは、これらを参考にして、祭りの当日、玉ねぎスープやみそ汁をつくったり、玉ねぎ染めの作品を並べて紹介することができた（図2）。

### （5）思いもよらぬ方向で自慢は続いた！

11月は御陵の玉ねぎ苗植の時期である（図3）。農家の方のご好意で300本近くの苗をいただいたため、「子どもの広場」でも紹介することにした。学級委員でもあるS君の「御陵の玉ねぎを植えてみませんか。」という書き込みに、富山県出町小学校、石川県扇台小学校、神奈川県飯田北小学校の3校から手が挙がり、それぞれに100本ほどを送った。「届きましたよ！」「ホームページなどで観察日記をアップしていきます！」という返事に子どもたちはとても喜び、これまで実現できなかった他校との交流が実を結びつつあるのを感じ私自身大変うれしかった。4人はこれを機会にして上手に御陵の玉ねぎを自慢するようになっていった。「おいしい玉ねぎができるといいな。」との書き込みに、「大きくておいしい玉ねぎができるよ。長年、御陵の玉ねぎを作っている人からもらった苗だから。」と、何度も食しているK君の返事は自信に満ちたものであった。

### （6）出町小学校からチューリップの球根が届いた！

ある日「チューリップの球根はいりませんか？」と出町小学校からびっくりするようなお知らせが届いた。本場砺波から届くチューリップの球根に子どもたちはすぐにとびついた。御陵の自慢の玉ねぎが富山の出町小学校で植えられ、出町小学校自慢のチューリップが御陵小学校で植えられることになった。この予想もしなかった学校間交流が実現したのは、この広場で子どもたち一人ひとりがいるんな交流を深めていったからにはほかならない。6年生では、いただいた球根を卒業記念に役立てようと、今学級会を開き、近くの社会福祉施設や6年間お世話になったところに鉢植えやプランターに植えてプレゼントしようと考えている。これらの活動は、いつまでも心に残る交流活動として、忘れられないものとなるだろう。

## 3. まとめ ～活動を振り返って～

今年度の6年生の総合的な学習の中で「子どもの広場」をおおいに活用させてもらった。御陵の玉ねぎは全国的には有名ではないけれど、子どもたちにとっては地域の自慢の一品である。「子どもの広場」は自信のなかった子どもたちに自信と勇気を与えてくれた。他の学校の子から「大きいね。」「おいしそう。」という返事もらったことが何よりも自慢になった。そしてお互いに自慢の品を交換し、ネット上のやり取りを通して大きく育てていく・・・これからも、もっと交流に広がりを見せるであろうと、期待を感じさせるものである。

4人のメンバーは、誰も目を向けなくなっていた教室のPCを交流の窓口として目ざめさせてくれた。スタッフをはじめたくさんの仲間に助けをもらいながら、自分の個性を上手に表現し、積極的に活動できるようになった。この4人の活動を見て、11人の子がこの広場への新規参加を希望してきた。今後15人でどのような交流を広げてくれるのか、また、一人ひとりがこの活動を通してどんな成長を見せてくれるのか、今から楽しみである。



（図1 御陵の玉ねぎはすごく大きい！）



（図2 玉ねぎのPR）



（図3 玉ねぎの苗植体験）